

受験 番号	
----------	--

二〇二二年度

入学試験

国語問題

注意

答えはすべて解答用紙に書きなさい。

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

夏休みの計画で活気だつ、七月のはじめ。生徒たちは半そでに着替え、軽々とした小さな鞆で通学するようになった。教科書はロッカーに置きっぱなしにする①とうヨウリヨウをおぼえたからだ。

にもかかわらず、玲香はあいかわらず大きな鞆を持っていたので、いやおうなくみんなの噂のタイシヨウになった。

「吉永さんの鞆、何がはいってるのかしら？」

「コンピューターでもはいってるんじゃない？ だって彼女、ロボットみたいでしよ。」

③クラスのみんなは、玲香に相手にされないために、陰口をたたきはじめて。当の本人は、そういう陰口の端を耳にしても、聞き流している。

彼女は怒らない。泣かない。笑いもしない。

ある日の夕方。美術の課題制作で遅くまで残っていた京子は、帰り道に玲香の姿を見かけた。いつもの鞆を、重そうに下げている。夕暮れの紫がかった空気につつまれ、玲香の後ろ姿は、なぜだか寂しげに映った。

「吉永さん。」

無意識のうちに声をかけていた。

「あら、斉藤京子さん。」

フルネームで呼ばれた。同じクラスだけれど、はるか遠い存在の彼女。今まで話をしたのも、数えるほど。京子は、名字だけじゃなく、名前までおぼえられていたのが、すこしうれしかった。

「吉永さんの家は、こっちのほうなの？」

「いいえ。向こう。」

玲香は、まったく反対の方向を視線で示した。

「じゃあ、寄り道？」

「ええ。」

私立の女子校は、規則が厳しく、ほんのすこしの寄り道も禁止されている。優等生の玲香が、みずから規則を破るなんて。思わず、

「どこへ？」

などと聞いてしまつてから、京子は自分の無遠慮さに気がついた。どこへ行こうが、人の勝手だ。玲香は、いやな顔をするにちがいない。

「ここよ。」

玲香は、聞かれるのを待っていたように、ポケットから一枚の名刺をだした。

〈骨董屋・うす灯〉

アドレスを見ると、この近くらしい。

「吉永さんって、アンティークに興味があるの？」

「ぜんぜん。」

首をふつた。細い首だ。その繊細な首に、繊細な頭がのっている。京子は、前に母親と見にいった、ロセツテイの絵を思いだしていた。あの画家がえがく女性たちに、彼女は似ている。

「なら、知り合いの人のお店？」

「いいえ。おととい、学校の帰りに、男の人に呼びとめられたの。わたしの父より、すこし年上くらいの眼鏡をかけた人。その人がね、これ売ってほしいって、熱心にいったのよ。」

玲香は、右手の鞆をゆらした。

「売ってしまうの？」

「ええ。やつと決心がついたの。」

「もったいない……」

大きな鞆は、玲香のトレードマークになっていた。彼女が、みんなと同じ紺の布バッグを下げたところなんて、想像できない。

鞆を京子のほうに差し出した。

「開けてみる？」

しばらく沈黙が続いた。

「いやよ。」

京子は、こわかった。これを開けたらとてつもない怪物があらわれ、京子に襲いかかるような気がしたから。

「この鞆は……」

玲香は、自分の鞆をじつと見つめている。

「姉のなの。わたし、九つ違いの姉がいたのよ。」

「へえ。」

家族の話を彼女から聞くのは、意外な感じがした。玲香には、親も兄弟も、知り合いさえもない、孤高なイメージがふさわしい。

「高校の入学祝いに、姉がもらった鞆なの。姉は、とても気に入って、大切に使っていたわ。形がくずれないように、雨の日はぜったいに持たない、って。」

確かに、いい鞆だろう。質がよく、高そうだ。

「わたし、まだ小学校にはいったばかりのころでしょ。姉の持つ物が、なんでもすてきに見えて、この鞆もほしくてたまらなくなったの。もちろん、貸してくれなかったわ。それで、わたし、一週間くらい泣きつづけたの。これをくれなきゃ、ごはんも食べないって、ダダをこねて。」

通りを曲がると、細い路地が、まっすぐに続いていた。

「母親は、わたしに合う、かわいい鞆を代わりに買ってきたわ。でもわたしは、受けつけなかった。どうしても、これじゃなきゃ、いやだから。あんまりわたしがうるさいものだから、母親は、今度は姉にあきらめさせるように、説得をはじめたの。姉はとうとう、わたしに負けて、この鞆をくれたの。そのときの姉の悲しそうな目、今でもおぼえてるわ、はつきり。」

言葉を、区切った。路地の先には、ぼんやりとした白い灯が見えていた。遠い

「もったいないよ、それ、すてき。」

思ったとおりを口にしたら、

「ウフフ。」

玲香が笑った。はじめて見るような、すがすがしい笑顔。

「どうしても、これ売ってしまう必要があるの。ねえ、斉藤さん。もしよかつたら、わたしといっしょに、このお店へ行ってくれない？ 直前で手ばなしたくなくなつたら、いやだから。」

今まで、人に頼ることのなかった玲香が、〈いっしょに〉を強調して、京子にあまえた。彼女の〈感情〉が、ほんのちよつと見えた気がした。

「いいけど……」

「その角を曲がって、路地の先らしいわ。」

京子は、このあたりの地理に詳しい。かわいいザツカ屋や、きれいな小物店は、だいたいチェック済みだった。けれど、〈うす灯〉という名は、はじめて聞く。新しくできた店なのかもしれない。玲香と肩をならべて、歩きだした。

「吉永さん、代わりましょうか？」

「えっ？」

「わたし、ロッカーに荷物、置いてきたから、手が軽いの。あなたの鞆、重そうだから、わたしが持つてあげましょうか？」

玲香が、またすばらしい笑顔を見せながら、

「だいじょうぶよ。」

やさしく首をふつた。その仕草で、彼女が心を許しているのを実感した。今なら、聞けそうだ。ずつと気になっていた、あのこと。

「吉永さん。その鞆の中には、何がはいってるの？」

瞬間、玲香の顔に影がさした。悪いことを聞いてしまった。京子は、あわてた。

「あ、べつに答えてくれなくていいの。無理に、いやなら——」

「ううん。ほんとうは誰かに聞いてもらいたかったのよ。」

まなざしで、玲香は、その灯をながめている。

「それ以来、姉はわたしのほしがる物を、素直にくれるようになったわ。自分で気に入って買った物でも、大切な人にもらった物でも、なんだってくれたわ。わたしは、女王さまの気分だった。美しい絵本、流行のCD、華やかな洋服、かわいぬいぐるみ……。鞆の中に、奪った物をひとつひとつ、詰めていったの。わたしは、姉の物たちのおかげで、ずいぶんおとなっぽくなったし、知識もホウフになった。だけど……」

D 京子は、言葉をばさむのを、ためらって、あいづちさえ打たなかった。たぶん玲香は、自分の話を、自分自身に語りたのだから。

「姉は去年、誰にも相談なしに、遠い国へお嫁さんに行ってしまったの。もう二度と家に帰らないような気がするわ。家を出るとき、姉は幸せいっぱいな顔で、こういったの。」

『玲香ちゃん。わたしはやっと、自分だけの鞆を探しにいけそうよ。』
それを聞いて、わたしは、はじめて鞆の重さに気がついたの。詰めこみすぎて、

バンク寸前で、どうしていいのかわからなくなったわ。』
涙声になっていた。隣にいる玲香が、いつのまにか、小さな小さな女の子に変わってしまった。

「この鞆の中には、わたしの子どもじみたわがままや、愚かな優越感が、いっぱいはいっているの。自分への反省と、姉への罪ほろぼしのために、わたしはずっとこの鞆を持ちつづけたわ。」

路地のつき当たりに、レンガ色をした建物が見えてきた。白い灯は、あそこにともっている。看板に、「うす灯」という店の名が読めた。

「だけでも、解放されても許されるかな、と思ったの。あの店に売ってしまえば、わたしはもう一度、やさしい人間になれるかなって。」

「わたしは、ひとりっ子だから——」
店の近くまで来たとき、京子はようやく、言葉をばさんだ。

問三 — 線(2)「彼女、ロボットみたいでしょ」は玲香のどのような様子と言ったものでか。説明しなさい。

問四 — 線(3)「クラスのみんなは、玲香に相手にされないために、陰口をたたきはじめて」とありますが、京子にとっては玲香はどのような存在だったのですか。次の中から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

- ア 自分をいつも見下しているようで不愉快な存在。
- イ 親しくなりたいと思いつつもなれずに気になる存在。
- ウ 人とちがった行動をするのでうっとうしい存在。
- エ いつもみんなからのけ者にされていて気の毒な存在。

問五 — 線(4)「玲香の後ろ姿は、なぜだか寂しげに映った」とありますが、その時の玲香の説明として最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 学校でクラスのみんなに相手にされないことを、本当はつくづく思っていた。
- イ お姉さんがお嫁に行ってしまった一人つきりになってしまったことを寂しく感じていた。
- ウ 長く持ち続けてきた大きな鞆を売ってしまったことにしたので、別れを悲しんでいた。
- エ 反省と罪ほろぼしで気を張っていたが、背伸びをしないありのままの自分に戻ってきていた。

問六 — I II に入ることで最も適切なものを次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア また イ ついに ウ ところが エ しかも オ だから

問七 — 線(5)「すがすがしい笑顔」とありますが、玲香がすがすがしい笑顔を見せたのはなぜですか。次の中から最も適切なものを選び、記号で答えな

「吉永さんの鞆が、どれほど重いのか、よくわからない。でも、吉永さんが、ほんとうにやさしい人だってことは、よくわかってる。」

ドアを開いて、店の中にはいった。
カウンターにすわっていたロイド眼鏡の主人が、玲香に気づき、「いらっしやい。やつぱり来たね。」
鞆に視線を落とした。

「お嬢ちゃんには、こんな物、もういらないうらうよ。」
主人は、鞆をカウンターに載せ、金のフアスナーを一気に開いてみせた。中は、

カラッポだった。
(田村理恵「うす灯」より)

問一 — 線①④のかたかなを漢字に直しなさい。

問二 — 線(1)「いやおうなく」の使い方として最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 明子は二つから一つを選ぶチャンスを与えられたので、よく考えていやおうなく二つめの方を選んだ。
- イ 良子はその委員になりたかったので、周囲の席を見回して、いやおうなく引き受けることにした。
- ウ 美枝は学校から遠い場所に引越したので、いやおうなく電車通学することになった。
- エ 友子はドリブルの技術が上達してきたので、いやおうなく今度の対外試合が楽しみなようになってきた。

問三 — 線(2)「大きな鞆を「すてきな鞆で売るのはもったいない」と初めて友人に話してもらったから。」

- ア 大きな鞆を「すてきな鞆で売るのはもったいない」と初めて友人に話してもらったから。
- イ 京子が思ったとおりに口にするので、悩んでいたことがばかしくなったから。
- ウ 今までのさまざまな鞆への思いをようやく自分の中で整理し、鞆を売ることが決意できたから。
- エ こんなに重い鞆を買ってくれる人がいるなどと思ってもみなかったし、それが鞆を手放せるよい口実になったから。

問四 — 線(3)「鞆の重さに気がついた」とありますが、「鞆の重さ」とはどういうことですか。次の中から適切なものを二つ選び、記号で答えなさい。

- ア 姉からもらったたくさんのものでいつのまにか鞆がいっぱいになっていて、これ以上何も入れられないこと。
- イ 自分の鞆を探しに行くという姉の言葉で玲香が気づかされた、姉に託すことこの鞆の大切さ。
- ウ 姉が遠い国へお嫁に行ってしまうのが、自分が鞆を姉から奪ったことが原因だったということ。
- エ 姉から奪ったものだけでなく、実は自分の愚かさでいっぱいになっていたということ。
- オ 姉からもらったものばかりが入っていて、自分が使うものはこの鞆に何一つ入っていないということ。

問五 — 線A〜Fからは玲香と京子の関係の微妙な変化が読みとれます。それを話し合ったア〜カについて、本文の内容に合っているものには○、そうでないものには×をそれぞれ答えなさい。

A 京子は、名字だけじゃなく、名前までおぼえられていたのが、すこしうれし

A 彼女（感情）が、ほんのちよつと見えた気がした。
 B その仕草で、彼女が心を許しているのを実感した。
 C 京子は、言葉をはさむのを、ためらって、あいつちさえ打たなかった。
 D 小さな小さな女の子に変わってしまった。
 E 京子はようやく、言葉をはさんだ。
 F

A では京子が自分だけが玲香から遠い存在だと思っていたことが分かります。
 B では二人の素直な感情が少しふれ合って、京子は玲香の中に普通の女の子らしい面を見いだしています。
 C 今まで接点がなかった二人がAの段階からどんどん仲良くなって、Cでは玲香と京子の友情がしっかりとむすばれたのですね。
 D で京子は、予想以上に深刻な玲香の苦しみにふれてどうしてよいか分からなくなっていますが、京子は玲香が自分の中に閉じこもって気持ちの整理をしていると感じています。
 E で京子は、玲香がわがままいっぱいで女王様気だったところに戻ってしまったように感じています。
 F で京子は玲香が十分苦しみを抜いたことを理解し、玲香を応援しています。ここで初めて二人の心が通い合ったのでしょう。

問十

「骨董屋・うす灯」は玲香の重たい鞆を「カラッポ」にしてくれた店としてえがかれています。「うす灯」という名前はどのようなことを暗示していると考えられますか。答えなさい。
 「お母さんにいます」
 次に先生は、ジュースの缶を上にあげて聞く。
 「じゃ、これは？ ジュースの缶です」
 小さな女の子が先生に聞いた。
 「なんのジュースですか？」
 「オレンジジュースです。どうしますか？」
 その子は、少し考えてからいった。
 「えーと、オレンジジュースだったら、そばに行つて、ちよつと、確かめてみます」
 見ていて私は胸が痛かった。その子は、オレンジジュースが好きなのに違いない。いまコンボでは、オレンジジュースなんか、簡単に手に入らないから、オレンジジュースなら、そばに行つて、確かめてみる、といっている。どうやって確かめるのだろう。結局、開けてみるしかないのだから。
 そして、その子は、死ぬとか、大怪我をする事になる。先生は、あわてて、いった。
 「ダメです！ 絶対に！ オレンジジュースの缶が、畑になつてある事は、ないんですから。これは地雷です。そばに寄つては、いけません!!」
 コンボだけでも、百万個の地雷があるという。これから、子ども達は、どうやって、その中で生きていくのだろう。
 戦争中、私は、きれいな、巾が五センチくらいの、長い銀紙を道でひろつた。もう、そういう奇麗なものは、一切、手に入らない時代だった。ヒラヒラと上から落ちて来たような形で、道に沢山、落ちていた。なかには、束のまま、きれいに巻いた形のまま、落ちていたものもあった。何のおいもしなかった。私は、大

1 次の文章は筆者・黒柳徹子さんが二〇〇〇年に発表した文章です。これを読んで、後の問いに答えなさい。

コンボに行つて来た。毎日、テレビのニュースで見ている所にジツサイに行くというの不思議なものだ。隣のアルバニアにも、マケドニアにも行った。ユニセフ（国連児童基金）の親善大使になって十六年。随分、色々な国に行つた。どこも子どもが助けを必要としているところ。コンボの正式名称は、ユーゴスラビア連邦セルビア共和国、コンボ自治州。とにかく町の印象は、どこも目茶苦茶。ふつうの家やお店は、ユーゴスラビアの軍隊やゲイサツに、焼かれ、壊され、略奪され。小さな家でも煉瓦や石造りなので、瓦礫のやま。そして、コンボの九〇%をしめるアルバニア系の人達の半分の、九十万人が、コンボから追い出されて難民になった訳だけど、追い出したユーゴスラビアの政府のキカンが入っていた大きな建物、ユウビン局、電信・電話局、ケイサツといったビルを、今度は、NATO軍が爆撃したから、これは、また、どれも、おぼけのように崩れ落ち、まわりの小さな家は爆風で飛び散り、要するに、コンボは目茶苦茶になった。(1)

(1) そんな中に、難民になっていた人達は、帰っていた。
 (2) いまコンボで何より大変なのは、地雷が、そこら中にある、ということ。ユーゴスラビアのセルビア人達は、沢山の地雷を、コンボのあらゆる所に、あらゆる方法で埋めたり、かくしたりした。これは、この国だけではなく、私が今まで行った内戦のある所には、必ずこの問題があつた。コンボでもどこにあるのか、わからないから、沢山の人が被害にあつてた。特に子どもは、どこにでも走つて行つたり、とびこんで行つたりするから、可哀そうに、大勢の子どもが、やられていた。ユニセフでも学校でも、子ども達に、まず、地雷のことを教えていた。(3) 特に卑怯なのは、コーラや、ジュースの缶の地雷があることだった。子どもが飲むかと思つて、フタを開けると、爆発するようになっていた。だから先生は、子ども達に、コーラの缶を見せて質問する。

切に、それをひろつて、家に持つて帰り、千代紙の箱の中にした。時々、そつと出して、太陽のほうにむけると、キラキラと、まぶしいくらい美しく光つた。戦後、それも割と最近になつて、その銀紙は、アメリカのB29が、日本の電波を混乱させるために空から撒いたものだと思つた。(4) 私たちには、そんな事はわからなかつた。ただ、あの何も無い時、つまらない時、突然のキラキラ光る銀紙は、宝物のように思えた。でも、手にとつて害になるものじゃなくて良かった。もし、子どもを狙うものだったら、私たちは、とつとに死んでいたに違いない。子どもを殺すことなんて、本当に簡単だと思う。疑わないのだから。数年前、ボスニア・ヘルツェゴビナで、ぬいぐるみに仕掛けた爆弾で、それを抱いた子どもが死んだという話を聞いたとき、私は呆然とした。そんな事が出来るなんて。子どもが、大好きな、ぬいぐるみを抱くことを知りつくして、爆発物を仕掛ける人たち。これが民族的な憎しみというものだ、知らされた。

コンボの六三%の小中学校が、セルビアの人達によって破壊された。アルバニア系の人たちには、勉強させたくない、という理由からだという。残っている校舎でも窓ガラスはなく、机も椅子も少ししかない中で、それでも子ども達は、元気に勉強していた。校舎が足りないから、三部制でやっていた。そのために時間を間違えて一人だけ早く来ちゃつて、仕方なくボンヤリすわつてる男の子がいた。私は、そばに座つて、なぐさめた。

「ねえ、今までの時間と違うんだもの、仕方がないわねえ」
 四年生ぐらいの男の子は、私を見ると、少し笑つた。バルカン半島の子ども達は、みんな、揃つて可愛い顔をしている。「どんな顔？」と聞かれたとき、すぐに答えられる方法を私は思いついた。どこの国でも、人形劇をやるときに、手にはめたりする子どものお人形の顔は、たいがい丸っぽくて、鼻がチョココンと丸くつて、目が大きくて青くつて、髪の毛が金髪。どこにも、とんがったところがなくて、なんとなく、まあいい。ああいうお人形さんを想像して頂けば、それがコンボの子ども達の顔。そのお人形さん達が、みんな、家が壊される音や、火で焼か

れる音、人が殺される叫び声や、のしる声を聞いた。そして空からの爆撃を受け、空が真赤に焦げるのを見た。そして、その中を逃げまどい、難民になって、いま、やっと帰って来た。

それにしても、親とはぐれた子ども達は、どうしただろう。コンボを追われるとき、駅で、大人と子どもは別々の汽車に乗せられ、完全に反対の方角に走らされた。あの汽車いっぱいの子も達は。何があったのか、どこへ行くのか、何もわからず小さな子ども達は、押され、もみくちゃになりながら難民キャンプに送られた。あの子ども達は。

まだ、コンボに帰れないで、マケドニアの難民キャンプに沢山のこっている子ども達にも会った。中には、両親が殺されて、コンボに帰る所もないのに、知らされてなくて、無邪気に、私に歓迎の歌をうたってくれた五歳の女の子もいた。汚れない透き通るような声だった。

私が、コンボを出る日、州都のプリシティナのユニセフの事務所から出て来て車に乗ろうとした時だった。小学校三年生くらいの女の子が、どこで見つけて来たのか、道端で咲いているような、黄色い花の、小さな花束を私にくれて、おじぎをした。誰かに「子どものために働く人だ」と聞いたのかも知れなかった。私は、その子を抱いて、頬にキスした。そしたら、その子のうしろにいた同じくらいの年の女の子が、私に「チョココレート、持ってない？」と遠慮深げにいった。すると、花束をくれた子が、凄いいきおいで、うしろをむくと、その子に「バカじゃないの!？」というジェスチャーをした。NATO軍を中核とした国際平和維持部隊が沢山、入っているから、私たちの終戦のときと同じように、チユーインガム! チョコレート! なのだとわかった。「バカじゃないの!？」といわれた子は、恥ずかしそうに下をむいた。⁽⁵⁾私は、その子を抱いて、日本語でいった。「大丈夫! 私だって、昔、あなたのように、そういうもの、欲しかったんだから。可哀そうにね、子どものせいじゃないのね。」

問三 — 線(2)「これは、この国だけではなく、私が今まで行った内戦のある所

には、必ずこの問題があった」とありますが、この文についての説明として最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 筆者はテレビのニュースでは伝えられない事実を、現地に出かけた者にしか分からないこととして報告している。

イ 筆者は戦争や対立をなくせない人類全体の愚かさの象徴として地雷を考え、セルビア人だけを責めることはできないと考えている。

ウ 筆者はコンボの現実を人間の抱く民族的な憎しみというものの表れと考え、この問題を直視しようとしている。

エ 筆者は地域や時代が違っても人間のやることは似たようなものであり、セルビア人の行為も納得できると考えている。

問四 — 線(3)「特に卑怯なのは、コーラや、ジュースの缶の地雷があることだった」とありますが、なぜ卑怯だと言うのですか。説明しなさい。

問五 — 線(4)「私たちには、そんな事はわからなかった。ただ、あの何も無い時、つまらない時、突然のキラキラ光る銀紙は、宝物のように思えた」とありますが、この文についての説明として最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア コンボの少女が畑にあるオレンジジュースを手にとる取ろうとする気持ちや、ボスニヤ・ヘルツェゴビナでぬいぐるみ爆弾を抱いてしまった子どもの気持ちと筆者自身の体験を重ね合わせ、子どもたちに共感している。

イ コンボでセルビア人がコーラやジュース缶の地雷を仕掛けた態度と日本との戦争でアメリカ人が子供の心をいやした態度とを対比し、セルビア人の行為を批判している。

ウ コンボで無数の地雷の中で生きていかねばならない子供たちには、ジュースに近づいてはいけなさと頭ごなしにしっかりつけるのではな

車が動き出すと、土けむりの中で、子ども達は走りながら手を振った。私も手を振った。何十回、何百回、子ども達が手を振りながら車のうしろから走って来るのを、私は見ただろう。アフリカで、アジアで、中近東で。

そして、私も手を振りながら、何度、涙をこらえただろう。子ども達のせいじゃないのに、こんな、ひどい目にあっているのに、子どもたちは、何の文句もいわないで、手を振っている。

私が子どものとき、何も知らないで、日の丸の旗を振って送り出した兵隊さんは、帰って来なかった。自由が丘の駅に行つて、出征する兵隊さんに旗をふるると、スルメの足の焼いたのを一本もらえた。私は、それが欲しくて、時間があると、行つては旗を振った。スルメなんて、あの頃、めったに食べられるものではなかった。知らなかったとはいえ、私は、あのとき、スルメが欲しくて送り出した兵隊さん達が帰って来なかったことを、⁽⁶⁾

(黒柳徹子「黄色い花束」)

※注 ユーゴスラビア連邦セルビア共和国 コンボ自治州

……二〇〇八年に独立を宣言し、現在はコンボ共和国を名乗っている。

問一 — 線①④のかたかなを漢字に直しなさい。

問二 — 線(1)「そんな中に、難民になっていた人達は、帰っていた」とありますが、町が目茶苦茶になったにもかかわらず人々が帰ってきたのはなぜでしょうか。コンボに対して人々が抱いている気持ちについて、あなたの考えを書きなさい。

く、大切にそつと扱おうよう話したほうがよいと、自分の体験に基づいて考えている。

エ コンボの少女が畑にあるのがオレンジジュースならちよつと確かめたいというのを聞いて、自分の子どもの頃の思い出にいたり、自分が恵まれていたことを思い知ってほつとしている。

問六 コンボの子どもたちが内戦の戦場のまっただ中に身を置いて経験したことを、筆者が想像して具体的に書いてある部分があります。その書き出した文の初めの五字を答えなさい。

問七 — 線(5)「私は、その子を抱いて、日本語でいった」とありますが、この時の筆者の気持ちを説明しなさい。

問八 ⁽⁶⁾に入っている文は次のうちどれだと考えられますか。最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア なつかしく思い出し、今ではよい思い出
イ 何か感じることもなく、まるで他人事だった
ウ それが戦争なのだ、すっぱり割り切った
エ 今も申し訳なく、心の傷になつている

問九 — 線(7)「あの女の子から貰った黄色い花は、ノートに挟んで押し花にした。コンボの記念に」とありますが、この部分に込められた筆者の気持ちを説明しなさい。

得点

点

二〇二二年度 国語解答用紙

受験番号

氏名

点

Score box for the right side of the page.

Score box for the left side of the page.

Question 1 box (問一) with sub-sections ①, ②, ③, ④.

Question 2 box (問二).

Question 3 box (問三).

Question 4 box (問四).

Question 5 box (問五) with sub-sections ア, イ, ウ, エ, オ, カ.

Question 6 box (問六) with sub-sections ①, ②, ③, ④.

Question 7 box (問七).

Question 8 box (問八).

Question 9 box (問九).

Question 10 box (問十).